

2024 年度事業報告

1. 総括報告

2024 年度は、様々な自然災害や事故が多発する一方、外にあっては、緊迫した国際情勢の中で、自国第一主義を掲げる米国の大統領が返り咲き、内にあっては、政権与党が衆議院で過半数割れするなど、内外ともに先行きを見通しにくい、不透明感の漂う 1 年となった。

我が国の景気は緩やかに回復しているとされ、企業収益や業況判断は総じてみれば改善しているが、シャッター・ドアの出荷量はやや低調な動きとなっている。高止まりしていた鋼材価格は低下傾向が見られるものの、弱含みとなっている建築着工等の影響なども懸念され、今後の動向を注視していく必要がある。

このような状況の下、当協会は、2024 年 12 月、設立 60 周年の節目を迎えることとなった。2024 年度は、会員各社と連携し、事業計画に基づき、主に次のような事業を着実に実施した。

調査研究普及事業では、技術基準類の制定・改定、製品安全への取り組み、各種調査の実施など情報の収集・提供等を行った。

評定登録講習事業では、所定の性能を有するシャッター及びドアの認定、登録並びにシャッター及びドアに係る人材育成等を行った。

ストック対策として、引き続き、重点的な広報活動を展開するとともに、防火設備検査員講習の実技講習を着実に実施した。定期検査報告制度の改正に適切に対応し、改正内容の会員への周知に努めた。

また、シャッター施工者の確保・育成、施工品質の向上を図るため、シャッター施工者を対象に、技能検定制度の導入に向けた取り組みを進め、技能検定試験の指定試験機関に当協会が指定された。

さらに、浸水防止用設備の普及を図るため、技術標準の策定を進めるとともに、広報活動を実施した。

これらをはじめ、当協会が 2024 年度に実施した事業の概要は、以下のとおりである。

2. 調査研究普及事業

(1) 技術基準類の策定

①技術基準類の策定、改定

- ・耐火クロススクリーンの技術標準を改定した。
- ・浸水防止用設備建具型の技術標準の案を策定した。また、同パネル型の技術標準策定に向け、各基準を検討した。
- ・重量シャッターの技術標準改定に向け、各基準を検討した。
- ・窓シャッターの技術標準改定に向け、各基準を検討した。
- ・煙・熱感知連動機構の基準を改定した。
- ・高速シートシャッターの安全に関するガイドラインを策定した。
- ・高頻度シャッターの設置及び維持管理に関するガイドラインを改定した。

②シャッター関連 J I S への対応

- ・一般社団法人日本サッシ協会と共同で策定した J I S 原案に基づき、経済産業省において住宅用窓シャッター J I S が制定、公示された。
- ・オーバーヘッドドア J I S の改定に向け、原案作成委員会において、J I S 改定原案を策定した。

(2) 製品安全への取り組み

①事故情報の収集・分析、安全対策の検討

- ・事故情報の収集・分析を継続的に行うとともに、シャッター・ドア等安全対策検討委員会（委員長：河野守 東京理科大学教授）において、事故発生原因及び防止策について検討した。
- ・シャッターのユーザーや所有者向けに、シャッターを安全に使うための注意点等を取りまとめ、ホームページに掲載した。
- ・シャッター用制御機器の推奨更新期間を取りまとめ、ホームページに掲載した。

②耐火クロススクリーンの設置に関する自主管理

- ・耐火クロス製防火／防煙スクリーンの設置に関する自主管理の確認（7 社）を行った。

(3) 維持管理における安全対策の推進

①製品安全普及事業の推進

- ・シャッター・ドアの適切な安全確保及び維持管理を呼びかけるチラシ・ポスターの作成、ホームページへの注意喚起事例の掲載を行い、点検の日（6 月 1 日）、安全の日（9 月 1 日）を中心に、定期的な保守点検の実施や危害防止装置等が未設置のシャッターの解消を図るための取り組みを進めた。

②防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格制度の推進

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習を実施するとともに、

同保守点検専門技術者の新規認定、資格更新を実施した。

③防火設備定期検査報告制度への対応

- ・防火設備定期検査報告制度に関連して、一般財団法人日本建築防災協会の委託を受け、防火設備検査員講習の実技講習を実施した。
- ・また、同協会の学科講習テキスト及びWEB講習用ビデオの改定に協力した。
- ・防火設備検査員を対象とした、実務能力の向上を図るための実践的なWEB講習を実施した。

(4) 資料収集・普及事業

①シャッター・ドアの市場及び用途に関する調査

- ・2023年度調査の集計・分析を行い、過去10年のデータを会報で公表するとともに、2024年度調査を実施した。

②労働災害発生状況調査

- ・2023年度労働災害発生状況調査をまとめ、会員に報告するとともに、2024年度調査を実施した。
- ・労働災害発生防止スローガンとして「墜落・転落の防止」を前年度に引き続き掲げ、会員に対して労働災害発生防止の周知を図った。

③元下請取引実態調査

- ・2023年度元下請取引実態調査の集計・報告を行った。

④防犯製品に関する情報収集・提供

- ・防犯5団体普及促進協議会に参加し、防犯製品に関する情報収集、意見交換を行うとともに、警察学校における情報提供、セキュリティショー2025、防犯防災総合展2024等への出展を行った。

⑤ホームページ、会報による情報提供

- ・JSDA会報の7月号及び1月号を発行した。
- ・ホームページ及びJSDA会報を活用し、事業報告、事業計画をはじめ当協会の活動の状況、業界に関連するトピックスなどの情報提供を行った。

⑥協会表彰

- ・優秀工事従業者11名、協会委員貢献者4名の協会表彰を行った。

⑦優秀施工者国土交通大臣顕彰、不動産・建設経済局長顕彰

- ・2024年度優秀施工者国土交通大臣顕彰に協会関係者4名、同青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰に協会関係者2名を推薦し、顕彰された。

⑧スチールドア全国研修会の開催

- ・一般社団法人日本サッシ協会との共催で、2024年度のスチールドア全国研修会をWEB開催した。

⑨シャッター施工に関するテキストの別冊の策定

- ・シャッター施工に関する総合的なテキスト「重量シャッターの施工の実務」の別冊の策定を進めた。

3. 評定登録講習事業

(1) 所定の性能を有するシャッター及びドアの認定、登録等

①遮炎遮煙性能に関し国の認定を受けた構造方法(CAS)の使用承認

- ・遮炎遮煙性能に関し、国土交通大臣より認定を受けた構造方法(CAS)の使用承認を行っている。

CAS0257：使用承認登録済 23 社

CAS0258：使用承認登録済 17 社

- ・顧客ニーズの多様化等に対応するため、新たなCASの認定取得に向けた性能評価試験を実施した。

②連動機構・装置等の自主評定

- ・一般社団法人日本火災報知機工業会及び日本防排煙工業会と合同で、連動機構・装置等の自主評定を行った。

型式承認：1 件（危害防止用連動中継器 1 件）

型式更新：12 件（自動閉鎖装置 12 件）

軽補正：4 件（危害防止用連動中継器 4 件）

認定累計：60 件（自動閉鎖装置 46 件、危害防止用連動中継器 14 件）

連動機構・装置等自主評定委員会（委員長：奥村克夫 芝浦工業大学名誉教授）の開催：4 回

③防犯性能の高い建物部品の自主評定

- ・防犯性能の高いシャッター、ドア等の自主評定を行った。

型式承認更新：2 社 2 件（ドア B 種 1 件、OHD1 件）

型式承認累計（販売終了品等を除く。）：130 件（ドア B 種 83 件、窓シャッター 9 件、重量シャッター 8 件、軽量シャッター 16 件、OHD3 件、スイッチボックス 11 件）

防犯性能の高いシャッター・ドア等自主管理委員会（委員長：小出治 東京大学名誉教授）の開催：0 回

(2) シャッター及びドアの保守点検に関する人材育成

①防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習の実施

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習を実施した。

開催地	開催日	受講者数
東京	8 月 22 日、23 日	140 名
大阪	8 月 20 日	78 名
合計		218 名

②防火シャッター・ドア保守点検専門技術者の新規認定、資格更新

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者の新規認定、資格更新を行った。

新規認定：176 名

資格更新：1,124 名（非更新者：221 名）

有効資格認定者：2025年3月末 6,696名

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定委員会の開催：1回

(3) 防火設備検査員に関わる講習の実施

①防火設備検査員講習における実技講習の実施

- ・防火設備検査員に関する講習の一環として実施する実技講習について、一般財団法人日本建築防災協会からの委託を受け、3地区で計6日開催した。

開催地	開催日	受講者数
東京	2月19日～21日	284名
大阪	1月23日、24日	151名
福岡	1月17日	52名
合計		487名

②防火設備検査員の実務能力向上のためのWEB講習の実施

- ・防火設備検査員を対象とした、実務能力の向上を図るための実践的なWEB講習を随時受付で実施した。

4. シャッター及びドアのストック対策の推進

- ・防火設備定期検査報告制度に関連し、防火設備検査員講習の一環として位置付けられた実技講習を一般財団法人日本建築防災協会から受託し、3地区で実施した。また、防火設備検査員を対象とした、実務能力の向上を図るための実践的なWEB講習を随時受付で実施した。
- ・定期検査報告制度の改正に適切に対応するとともに、告示改正の内容について、会員への周知に努めた。
- ・シャッター・ドアの適切な安全確保及び維持管理を呼びかけるチラシ・ポスターの作成、ホームページへの注意喚起事例の掲載を行い、点検の日（6月1日）、安全の日（9月1日）を中心に、定期的な保守点検の実施や危害防止装置等が未設置のシャッターの解消を図るための取り組みを進めた。

5. 技能検定制度導入への取り組み

- ・シャッター施工者の確保・育成、施工品質の向上を図るため、シャッター施工者を対象に、国家資格である技能検定制度の導入に向けた取り組みを進め、技能検定試験の指定試験機関に当協会が指定された。
- ・前年度に先行して行ったシャッター施工技能者資格認定試験（協会資格試験）の不合格者に対する再試験を実施した。
- ・シャッター施工に関する総合的なテキスト「重量シャッター施工の実務」の別冊の策定を進めた。

6. 浸水防止用設備の普及の推進

- ・浸水防止用設備建具型の技術標準の案を策定した。また、同パネル型の技術標準策定に向け、各基準を検討した。
- ・浸水防止用設備に関するポスター、リーフレットを作成し、4月を重点活動期間として、会員各社と連携して浸水防止用設備の普及のための取り組みを進めた。

7. シャッター関連 J I S への取り組み

- ・一般社団法人日本サッシ協会と共同で策定した J I S 原案に基づき、経済産業省において住宅用窓シャッター J I S が制定、公示された。
- ・オーバーヘッドドア J I S の改定に向け、原案作成委員会において、J I S 改定原案を策定した。

8. 会員サービスの取り組み

- ・第4回賛助会員の技術・製品に関する説明会を開催した。
- ・協会の各種技術標準等について、会員ページにおいて、オンラインで閲覧ができる環境を整備し、公開した。

9. 会議等の開催

(1) 総会：1 回

2024 年度通常総会 2024 年 5 月 21 日（火）

於：ホテルグランドアーク半蔵門 「トパーズ」

- ・2023 年度事業報告、決算承認の件
- ・役員（理事・監事）選任の件
- ・新会費承認の件
- ・2024 年度事業計画、収支予算の件
- ・2024 年度協会表彰の件
- ・会員の状況の件

(2) 理事会：4 回

2024 年度第 39 回定例理事会 2024 年 4 月 26 日（金）

於：ホテルグランドアーク半蔵門 「トパーズ」

- ・2023 年度事業報告、決算の件
- ・2024 年度事業計画、収支予算の件
- ・2024 年度会費改定の件
- ・会員の入会の件
- ・理事・監事選任の件
- ・シャッター・ドア施工専門技術者資格の廃止の件
- ・通常総会開催の件
- ・防火設備定期検査報告制度の件
- ・技能検定制度の件

- ・2024 年度協会表彰の件
- ・2024 年度主要会議等開催計画の件

2024 年度第 40 回定例理事会 2024 年 5 月 21 日（水）

於：ホテルグランドアーク半蔵門 「トパーズ」

- ・会長選定の件
- ・副会長選定の件
- ・専務理事選定の件
- ・常任理事選定の件

2024 年度第 41 回定例理事会 2024 年 10 月 15 日（火）

於：新大阪ワシントンホテルプラザ 「蘭」

- ・2024 年度中間事業報告、中間決算の件
- ・窓シャッター J I S 制定の件
- ・技能検定制度の件
- ・防火設備定期検査報告制度の件

2024 年度第 42 回定例理事会 2025 年 1 月 14 日（火）

於：ホテルグランドアーク半蔵門 「シンフォニー」

- ・耐火クロス製防火／防煙スクリーン技術標準改定の件
- ・会員の入会の件
- ・技能検定制度の件
- ・防火設備定期検査報告制度の件

（3）常任理事会：7 回

（6 月 27 日、7 月 18 日、9 月 19 日、11 月 21 日、12 月 19 日、2 月 19 日、3 月 19 日）

・理事会・総会事案

定例理事会開催の件（9 月、11 月、3 月）

中間事業報告の件（9 月）

2024 年度事業報告、2025 年度事業計画の件（2 月、3 月）

会員の入会の件（11 月、2 月）

耐火クロス製防火／防煙スクリーン技術標準の制定の件（9 月）

技能検定の内部監査担当者選定の件（3 月）

・運営関係

2024 年度委員会構成の件（6 月）

2025 年度主要会議等開催計画の件（2 月）

技能検定制度に関する件（7 月、9 月、11 月、12 月、2 月）

技能検定の受検手数料の見直しの件（6 月）

建設キャリアアップシステム等の導入の件（2 月）

防火設備定期検査報告制度の件（6 月、7 月、11 月、12 月、2 月、3 月）

労務費の基準の今後の検討の進め方の件（11 月）

協会技術標準の電子化の件（7 月）

・その他

通常総会懇親会の件（6月）
 安全の日ポスター&チラシの件（7月）
 2023年度労働災害発生状況調査の件（7月）
 2023年度重大事故発生状況の件（9月）
 防火設備定期検査状況調査報告の件（9月）
 スチールドア全国研修会の件（9月、12月）
 防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習会開催の件（11月）
 賛助会員の技術・製品に関する説明会の件（11月）
 優秀施工者国土交通大臣顕彰の件（11月、2月）
 技能検定の指定試験機関の役職員に対する罰則の適用の件（2月）
 2025年度協会表彰の件（3月）

（4）運営委員会：11回

（4月9日、5月14日、6月11日、7月9日、9月10日、10月8日、11月12日、12月10日、1月21日、2月12日、3月11日）

（5）基準委員会：3回

（6月25日、11月7日、3月25日）

（6）常設委員会

業務委員会	7回	工事委員会	12回
講習委員会	12回	メンテナンス委員会	11回
連動機構等自主評定専門委員会	7回	品質・安全委員会	11回
管理調整委員会	11回	シャッター技術委員会	11回
耐火クロス技術委員会	10回	OHD技術委員会	12回
高速シート技術委員会	11回	窓シャッター技術委員会	11回
ドア技術委員会	11回	企画広報委員会	11回
浸水防止用設備委員会	11回	防火設備委員会	10回
技能検定制度化PT	12回		

（7）第三者委員会

防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定委員会 （委員長：菅原進一 東京大学名誉教授）	1回
連動機構・装置等自主評定委員会 （委員長：奥村克夫 芝浦工業大学名誉教授）	4回
シャッター・ドア等安全対策検討委員会 （委員長：河野 守 東京理科大学教授）	1回
防犯性能の高いシャッター・ドア等自主管理委員会 （委員長：小出 治 東京大学名誉教授）	0回
シャッター施工技能者資格認定試験委員会 （委員長：河野 守 東京理科大学教授）	3回

10. 会員の状況

会員種別	2024 年度末				2023 年度末
	入会	退会	会員数	増減	会員数
第一種会員	0	0	14	±0	14
第二種会員	2	4	88	－2	90
準 会 員	0	3	24	－3	27
賛 助 会 員	0	2	41	－2	43
合 計	2	9	167	－7	174

2024 年度の入会、退会状況

(入会)

第二種会員：株式会社 LiG
 有限会社誠和実業

(退会)

第二種会員：有限会社シャッターサービスセンター
 渡辺金属工業株式会社
 BX 鐵矢株式会社
 原田建鉄工業株式会社

準会員：BX 文化パネル株式会社
 BX 東北鐵矢株式会社
 BX ケンセイ株式会社

賛助会員：サンワ産業株式会社
 株式会社スガモトデント